

平成27年度  
機能連携広域経営推進調査事業  
報告書

平成28年3月  
姫路市

# 目次








|                       |     |
|-----------------------|-----|
| 1 播磨圏域の概要             | P1  |
| (1) 圏域の背景・現状          | P1  |
| (2) 位置・地勢             | P2  |
| (3) 広域連携の取組           | P3  |
| 2 機能連携広域経営事業の取組       | P5  |
| (1) 播磨圏域の農林水産業を取り巻く状況 | P5  |
| (2) 播磨圏域が目指すもの        | P5  |
| (3) 推進体制              | P5  |
| (4) 実施した委託事業の内容       | P6  |
| (5) 事業の効果、課題及び解決法     | P12 |
| (6) 今後の展開・方向性         | P13 |
| (7) 参考 播磨圏域連携中枢都市圏の取組 | P13 |








# 1 播磨圏域の概要

## (1) 圏域の背景・現状

|                        |  |                          |                          |
|------------------------|--|--------------------------|--------------------------|
| 連携中枢都市                 | 姫路市  |                          |                          |
| 連携市町                   | 相生市、加古川市、赤穂市、高砂市、加西市、宍粟市、たつの市、稲美町、播磨町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町<br>(下線部は姫路市への通勤・通学割合 10%以上の市町) |                          |                          |
| 人口                     | 連携中枢都市   | 近隣市町                     | 合計                       |
|                        | 536,270 人  | 790,923 人                | 1,327,193 人              |
| 面積                     | 534.44 km <sup>2</sup>   | 2,265.97 km <sup>2</sup> | 2,800.41 km <sup>2</sup> |
|                        | 15 歳未満   | 15～64 歳                  | 65 歳以上                   |
| 圏域の年齢構成                | 191,553 人  | 835,066 人                | 300,574 人                |
|                        | 14.4%  | 62.9%                    | 22.7%                    |
|                        | H2→7 年   | H7→12 年                  | H12→22 年                 |
| 圏域の人口増減率<br>(5 年前との比較) | 1.004  | 0.994                    | 0.990                    |
|                        | 1.011  |                          |                          |
| 連携中枢都市の<br>昼夜間人口比率     | 1.011  |                          |                          |

(出典：平成 22 年国勢調査)

| 市町名  | 人口        | 産業別就業人口割合 |       |       | 面積                     | 主な産業等   |
|--|-----------|-----------|-------|-------|------------------------|---|
|  |           | 第1次       | 第2次   | 第3次   |                        |   |
|  姫路市  | 536,270 人 | 1.1%      | 32.5% | 66.4% | 534.44 km <sup>2</sup> | 鉄鋼業、化学工業、電気機械工業などを中心とした工業地帯を形成。皮革関連産業、鎖、ボルト・ナット、マッチ、乾麺、菓子などの地場産業が発達。中心部には商業・業務をはじめとする県下有数の都市機能が集積。    |
|  相生市  | 31,158 人  | 2.0%      | 34.2% | 63.9% | 90.45 km <sup>2</sup>  | 造船業を中心として発展。現在は社会変化に対応した異業種の進出を図るなど、産業、経済の基盤づくりを進めつつ、豊かな自然環境を生かし、牡蠣、ゆず、味噌など特産品づくりも進めている。              |
|  加古川市 | 266,937 人 | 0.6%      | 24.1% | 75.2% | 138.51 km <sup>2</sup> | 播磨臨海工業地帯の一翼を担う鉄鋼業のほか、地場産業としては靴下製造業等を有している。  |
|  赤穂市  | 50,523 人  | 2.1%      | 34.6% | 63.3% | 126.88 km <sup>2</sup> | 伝統産業として地域経済を支えてきた塩田跡地は、工業用地等に転用され、播磨臨海工業地帯の西部拠点となっている。西播磨テクノポリス計画の副母都市として工業生産機能を担い、新たな企業誘致を積極的に進めている。 |
|  高砂市  | 93,901 人  | 0.4%      | 26.7% | 73.0% | 34.40 km <sup>2</sup>  | 臨海部に機械製造業、鉄鋼業、化学工業、食料品製造業等の工業地帯を有している。また、古代から約 1700 年間採石が続いている竜山石を扱う石材業が地場産業の一つである。                   |
|  加西市  | 47,993 人  | 3.4%      | 41.8% | 54.8% | 150.95 km <sup>2</sup> | 家電製品蓄電池製造業、金属製品製造業、地場産業の播州織、米、ぶどう「加西ゴールデンベリーA」(ひょうご安心ブランド認定第一号)、大根、トマト、いちごなど                          |
|  宍粟市  | 40,938 人  | 5.1%      | 39.9% | 55.0% | 658.60 km <sup>2</sup> | 広大な森林面積を有しており、林業は地域の基幹産業となっている。このほか、農業、素麺業などが盛んである。   |
|  たつの市 | 80,518 人  | 2.8%      | 38.4% | 58.7% | 210.93 km <sup>2</sup> | 市内を流れる清流揖保川の恵みをうけ、昔から手延素麺、醤油醸造、皮革産業など全国シェアトップクラスの地場産業が盛んである。  |
|  稲美町  | 31,026 人  | 4.3%      | 36.3% | 59.4% | 34.96 km <sup>2</sup>  | 基幹産業の農業のほか、住宅、工業の供給地として発展。農業の活力ある振興に努め、「いなみ野メロン」、「万葉の香」(米)など町内の優良な農作物や加工品などを「稲美ブランド」として認証。            |

|   |     |             |      |       |       |                          |  |
|---|-----|-------------|------|-------|-------|--------------------------|--|
|  | 播磨町 | 33,183 人    | 0.6% | 33.9% | 65.6% | 9.09 km <sup>2</sup>     | 海岸部の埋立地には一般機械器具製造、化学工業を中心とする約60社の工場が操業。商業は近郊の大型店の進出により厳しい状況。農業は米中心で、宅地化が進むにつれ、耕地面積は減少の一途。  |
|  | 市川町 | 13,288 人    | 3.1% | 41.5% | 55.4% | 82.70 km <sup>2</sup>    | ゴルフアイアンクラブ製造発祥の地として知られ、町内には約 20 か所の事業所があり、その製品は国内にとどまらず海外にも輸出され、高い評価を受けている。  |
|  | 福崎町 | 19,830 人    | 3.1% | 37.3% | 59.6% | 45.82 km <sup>2</sup>    | 3つの工業団地を中心とした工業、農業、商業の調和のとれた発展を目指す。町特産品「もちむぎ」を原材料とするもちむぎ麺、素麺「福の糸」、どら焼き、焼酎、お茶等の加工食品を開発し、「もちむぎ」による町おこしを図っている。                        |
|  | 神河町 | 12,289 人    | 3.2% | 35.1% | 61.7% | 202.27 km <sup>2</sup>   | 豊かな森林、田畑、清流。加えて、JR播磨線と公立神崎総合病院。姫路まで 40 分、京阪神まで 1.5 時間と良好なアクセス環境。観光業、農業・林業・米、ゆず、自然薯等豊かな特産品。   |
|  | 太子町 | 33,438 人    | 1.4% | 36.9% | 61.7% | 22.62 km <sup>2</sup>    | JR山陽本線や国道2号線などの主要交通網への利便性がよく、大手電機メーカーなどの工場や事業所、商業施設が地域集約的に立地。「太子みそ」や「太子いちじく」などの特産品が充実。   |
|  | 上郡町 | 16,636 人    | 5.0% | 30.0% | 65.0% | 150.28 km <sup>2</sup>   | 西播磨工業地帯の後背地として、電機部品製造業をはじめ食品、ビニール製品などの業種が点在して立地。<br>農業は米作を主とし、近年、麦、野菜、豆類などを生産。一部地域では果樹などを生産。<br>水産業については、鮎等の養殖を生かした観光水産業の振興が必要な状況。 |
|  | 佐用町 | 19,265 人    | 7.5% | 30.4% | 62.1% | 307.51 km <sup>2</sup>   | 基幹産業は農業。もち大豆みそ、ひまわり油、そば、自然薯などの農産物や加工品が充実、佐用名物ホルモン焼きうどんも含め地域ブランドとなっている。西はりま天文台や、一面に咲く夏のみまわり畑に毎年多くの観光客が来訪。                           |
|   | 計   | 1,327,193 人 | 1.5% | 31.2% | 67.3% | 2,800.41 km <sup>2</sup> |  |

## (2) 位置・地勢

本圏域は兵庫県の南西部に位置し、その中心都市である姫路市は、古来より播磨地域の中心として栄え、世界文化遺産姫路城に象徴される風格ある歴史文化都市として、近代から現代にかけて活力ある商工業都市として発展を遂げてきた。

瀬戸内海に面した播磨平野のほぼ中央に位置し、神戸市まで 50 km、岡山市までは 70 km、大阪市や鳥取市までは 80～90 km の距離にあり、京阪神、中国、山陰を結ぶ交通の要衝となっている。



### (3) 広域連携の取組

#### ○西播磨市町長会

西播磨5市6町の首長が集まり、西播磨地域の重要課題について調査・研究及び協議をすることにより、同地域の地方行政の円滑かつ効率的な展開と総合的な発展に資することを目的としたものである。

【設 立】昭和58年7月11日

【構成市町】姫路市、相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、神河町、市川町、福崎町、太子町、上郡町、佐用町

#### ○播磨地方拠点都市推進協議会

播磨地方拠点都市地域の市町が、産業構造の高度化と快適な生活環境の整備を総合的に進め、「職・住・遊・学」機能の備わった活力と魅力のある新しい都市圏を形成することにより、地域の自立的成長と均衡ある発展に資することを目的としたものである。

【設 立】平成5年1月22日

【構成市町】姫路市、加古川市、高砂市、たつの市、稲美町、播磨町、福崎町、太子町

#### ○播磨広域連携協議会

播磨地域の市町が、対等協力の立場で連携・団結し、広域的課題の取組を推進することを通じて、「播磨」の存在感を全国に発信するとともに、播磨地域の総合力を高めることを目的としたものである。

【設 立】平成24年5月29日

【構成市町】姫路市、相生市、加古川市、赤穂市、西脇市、三木市、高砂市、小野市、加西市、宍粟市、加東市、たつの市、明石市、多可町、稲美町、播磨町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町

#### 【主な取組】

##### ・広域防災体制の構築

協議会発足と同時に、全構成市町で播磨広域防災連携協定を締結し、災害発生時のみならず、平常時においても必要な相互協力体制を確立している。

##### ・広域観光の推進

播磨地域が誇る地域資源である酒蔵や山田錦の田園、食や文化財などの地

域資源を巡る「はりま酒文化ツーリズム」を展開し、播磨の情報発信を通して地域の振興を図っている。

#### ○播磨圏域連携中枢都市圏

人口減少社会の危機に直面する中で、播磨圏域の市町が対等協力の立場で団結し、播磨圏域の経済の活性化、圏域の魅力の向上、住民に安心・快適な圏域づくりを目指すものである。

【連携協約締結】平成27年4月5日、12月21日

【構成市町】姫路市、相生市、加古川市、赤穂市、高砂市、加西市、宍粟市、たつの市、稲美町、播磨町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町

#### 【主な取組】

- ・圏域全体の経済成長のけん引
  - 放射光施設活用促進事業及びスーパーコンピュータ活用促進事業
  - 企業誘致の推進
  - 播磨圏域広域観光事業
  - 播磨地場産品販路拡大事業 等
- ・高次の都市機能の集積・強化
  - 姫路駅周辺整備事業の推進
- ・圏域全体の生活関連機能サービスの向上
  - 社会施設等相互利用促進事業及び図書館相互利用促進事業
  - 移住・定住促進事業 等

#### ○その他

圏域内の各市町において、一部事務組合等（ごみ処理、し尿処理、消防等）による事務の共同処理を行っている。

## 2 機能連携広域経営事業の取組

### (1) 播磨圏域の農林水産業を取り巻く状況

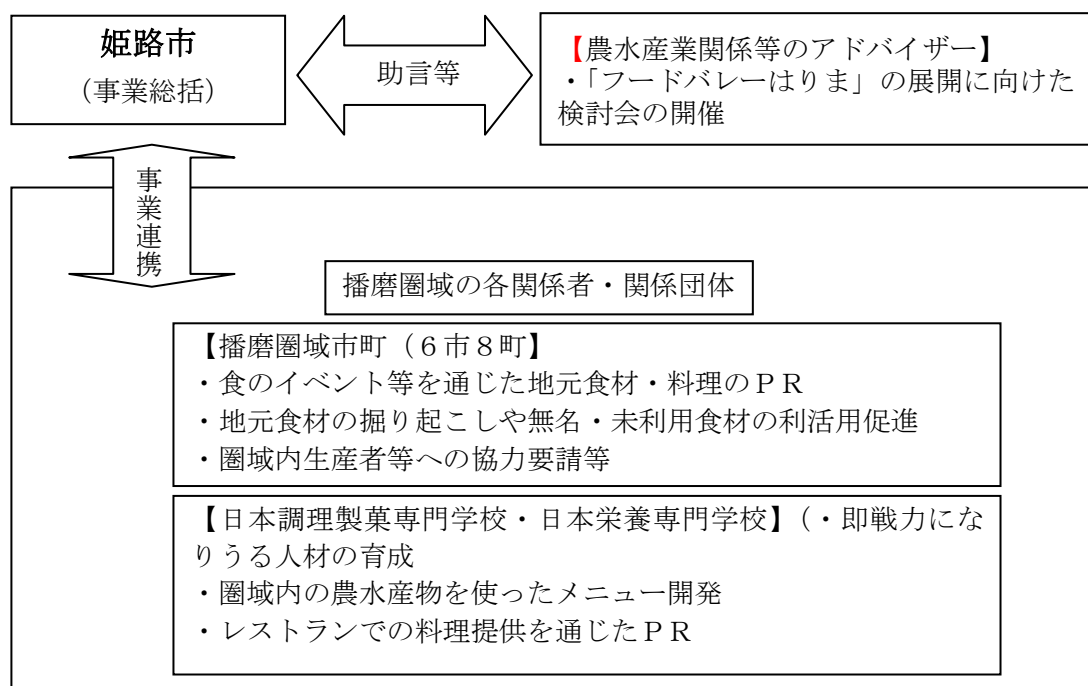
播磨地域は温暖な気候と山海の自然に囲まれ、古来より「豊穰の地」と呼ばれており、地域の特性に合わせた多彩な農林水産物や長い歴史の中で培われた多様な食文化が集積している。また、圏域内には「食」に関わる多くの団体・関係者（農林水産業関係者、大学、調理専門学校、農業高校、直売所、卸売市場、飲食店等）があり、それぞれの強みを活かしながら様々な取組が進められているところである。

一方、農林水産業を取り巻く状況は、従事者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加等により、本圏域の農林水産業界は年々縮小傾向にあり、他の地域と同様に厳しい状況にある。

### (2) 播磨圏域が目指すもの

これまでは「食」に関わる各団体・関係者がそれぞれで取組を進めていたが、姫路市及び播磨圏域（7市8町）が取組む播磨圏域連携中枢都市圏の形成をきっかけに、播磨圏域内の「食」に関わる各団体・関係者・行政が、それぞれの強みを活かしつつ、有機的に連携（集積）することで、本圏域内でのさらなる農林水産業の活性化、地産地消の推進、次世代従事者の育成を目指す。

### (3) 推進体制



|  |
|--|
| <p>【圏域内大学、農業高校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食材が持つ有効成分の分析</li> <li>・次世代農業従事者の育成を通じた地域貢献活動</li> </ul>                                |
| <p>【生産者等】（地元農家等、飲食店等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元食材の調達・提供</li> <li>・食材の見極め方、仕入れ方法等の情報提供</li> <li>・郷土料理・地元食文化に関する情報提供</li> </ul> |

#### （４）実施した委託事業の内容

##### ○「食」をテーマにした連携のあり方に関する意見交換会

（構成団体）

兵庫県立大学先端食科学研究センター、J A兵庫西、姫路食文化協会、  
（公財）姫路・西はりま地場産業センター、（株）兵庫大地の会、  
兵庫県立農業高等学校、日本調理製菓専門学校

（日時）平成28年3月23日（水）

（議題）「食」をテーマにした連携のあり方について

播磨圏域連携中枢都市圏の主な取組（地域ブランドの育成）について  
事例調査結果について  
各団体の取組について

（主な意見や実績）

- ・姫路（播磨）の「食」が健康に良いと打ち出せることができれば、最終的に姫路モデルとして「食と健康」というテーマで消費拡大、販路拡大が期待できるのではないかと。
- ・兵庫県立大学の成功例として、学生と教員、酒蔵、販売業者が連携して、酒米づくりから酒づくりまで一貫して携わり、オリジナルブランド酒を作っている。昨年からは一般向けに販売を行っている。この事例は、利益には繋がらないが酒蔵をはじめとした業者の理解のもと成り立っている。
- ・もち麦がもち機能性に注目して、福崎町と連携して商品開発研究を行っている。
- ・ブランド品作りには、コンセプトとそれにあったパッケージが必要。姫路商業高等学校の協力のもと、デザインやパッケージを含んだコスト計算をお願いした例がある。これらは学生がいろいろを学べるいい機会なので、人材育成の観点から重要である。



- ・販路拡大に繋げることが大事。大学や行政だけではコスト意識や様々な制約があるので、最初から事業者と連携して、売れそうなもの、販路拡大が期待できるようなものに力を入れてはどうか。
- ・姫路（播磨）の食習慣や食文化を小学校区くらいの細かい単位で調べてみてはどうか。姫路（播磨）の「食」＝「健康」に繋げるためには、細かく調べる必要がある。
- ・姫路（播磨）のブランド→健康（機能性）→モデル化＝姫路（播磨）モデルの確立と繋がれば、「食」をテーマに活性化できるのではないか。
- ・現在、播磨圏域内の食材のうち、その機能性の研究を行っているのは、もち麦、酒粕、小豆の煮汁、鹿肉である。
- ・播磨圏域では、米、麦、大豆などが主な栽培されているが、作れば売れるという時代ではなくなっている。売れるものを作らないといけない。例えば、圏域内の醤油会社が望む高タンパクの大豆づくりなどである。これは地産地消にも繋がっている。
- ・学校給食向けに小麦なども栽培している。そこに小学生が社会見学に訪れており、「食」を通じた学習が行われている。
- ・圏域内には、大根、人参、れんこん、たけのこなど様々な食材があるが、小規模な農家が多く、産地拡大は厳しいのではないか。
- ・全体的に圏域内で消費されることが多いが、ターゲットとして神戸や大阪といった阪神地域への販路拡大か。
- ・食材の機能性といった付加価値があれば消費拡大につながる。また、中小の農業者が機能性について相談できるような窓口があればいいのではないか。
- ・漁業関係者は販路拡大への意識が低い傾向にある。ブランド化に向けて取り組むことが必要で、マスコミへの露出も増やす必要がある。
- ・ブランド化に向けてとりくんでも漁獲量が不安定なのがネックである。どうしても養殖になってしまう。
- ・未利用の魚をどうするか。連携してB級グルメとして打ち出せないか。
- ・売上増加→雇用拡大→設備投資→定住人口増といった流れによる経済発展に繋げなければ続かないのではないか。

## ○「豊穰の国はりま」の食材活用レシピ集

### (目的)

地元の調理専門学校が生徒が考案した播磨圏域連携中枢都市圏内の食材を活用したレシピ集を作成するとともに、その食材が購入できる直売所を紹介することで、地元食材の地産地消、販路拡大及び生産者の意欲向上を目指す。

また、学生が考案したメニューを圏域内の住民に提供することで、地元食材を身近に感じ、地元食材の魅力の再確認・再発見に繋げる。

### (レシピ集の概要)

- ・メニュー数…36品

→桃色吐息のシャリアピン風、桃色吐息の柚香煮、ジビエの季節鹿肉の赤ワイン煮、肉巻き豆腐とナスの串カツ、トマト香るロース白菜、れんこんのはさみ揚げ、手羽先のさっぱり煮、豚肉の玉ねぎロール、前どれ穴子のだし巻き卵、家島の海の幸を使った海鮮チヂミ、鱸と浅利のアクアパッツァ、鰯の梅肉和え、たこロッケ、鰯のエスカベッシュ、鱸のポワレよもぎソース、鯖の彩り野菜の甘酢あんかけ、姫路おでん、ほっこり野菜のグラタン、播州煮、里芋ボール、家島のパリパリちりめんサラダ、白菜ミルフィーユ、里芋おやき、大根ステーキ、麻婆大根、ラタトゥイユ餃子、里芋のフリッタータ、播磨灘の蛸と姫路生姜香るたこ飯、じゃこ御飯、大豆のおいなりさん、かやく御飯、豚汁、酒粕チャウダー、野菜たっぷりけんちん汁、鶏団子スープ、カブのポタージュスープ

- ・掲載内容…冊子紹介、レシピ紹介、直売所位置図、直売所紹介、学校紹介
- ・印刷数量…10,000部



桃色吐息のシャリアピン風



鱸と浅利のアクアパッツァ



播磨灘の蛸と姫路生姜香るたこ飯



豚汁

### ○みかしほキッチン まるごとほりまの試食会

#### (目的)

調理専門学校生徒を中心に圏域内の農業高等学校、生産者等が連携し、圏域内の食材を使用した試食メニューを、実際に現場で調理・提供することで、播磨の食材の美味しさや産地がはっきりしていることから食材の安全・安心さをPRするなど、播磨の食材の知名度をあげ、販路拡大を目指す。

また、圏域内の農業高等学校の生徒が育てた食材や宍粟材を使った箸置き等の提供、日々の取組の紹介など、次世代の農業従事者の人材育成等も合わせて実施する。

#### (参加・協力団体)

日本調理製菓専門学校、兵庫県立農業高等学校、兵庫県立播磨農業高等学校、兵庫県立佐用高等学校、兵庫県立上郡高等学校、兵庫県立山崎高等学校、石井精肉店、田中酒造場、坊勢漁業協同組合、末廣醤油、新田ふるさと村、朱里逢、株式会社もちむぎ食品センター、日の出調味料、地元生産者

(日時) 平成28年1月30日～31日

(場所) 東京・浅草「まるごとにつぼん」イベントスペース

#### (内容)

- ・日本調理専門学校生徒による播磨の食材を使った試食メニューの提供
- ・圏域内の農業高等学校の紹介・PR
- ・来場者アンケートの実施

#### (提供メニュー)

- ・桃色吐息の角煮  
→豚…姫路市産、たけのこ…太子町産、れんこん…姫路市産、チンゲン

菜…佐用高校、

- ・もち麦入りたこめし

→有機米…播磨農業高校、もち麦…福崎町産、タコ…姫路市産

- ・酒粕チャウダー

→酒粕…姫路市産、金時人参…上郡高校、大根…農業高校、白ねぎ…佐用高校、エビ…姫路市産

- ・調味料等

→醤油…たつの市産、みりん・酒…稲美町産、オイスターソース…姫路市産、水…神河町産、からかわ…神河町産、宍粟材…山崎高校

(アンケート)

## 「みかしほキッチン試食会」来場者アンケート結果

姫路・播磨の8市8町は、今年度から連携してブランド振興や  
広域観光に取り組んでいます。(播磨圏域連携中枢都市圏構想)

姫路・播磨今後のPR活動の参考とするため、下記のアンケート  
にご協力をお願いします。



性別 (男性 (40)・女性 (62)・未回答 (16))  
年齢 (10代 (6)・20代 (11)・30代 (11)  
40代 (28)・50代 (23)・60代以上 (36)  
未回答 (3))  
お住い (青森県1、岩手県2、秋田県1、茨城県2、  
群馬県1、埼玉県12、千葉県17、東京都51、  
神奈川県16、静岡県1、未回答14)

**問1** ひめじ はりま 姫路・播磨を知っていますか。

- 1 両方知っている (66) 2 姫路だけ知っている (44)
- 3 播磨だけ知っている (0) 4 両方知らない (3)

**問2** 姫路・播磨の8市8町で知っている市町に○を付けてください。

|                                |                                |                                |                                |                                  |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| <small>ひめじし</small> 姫路市 (115)  | <small>あいおいし</small> 相生市 (39)  | <small>かこがわし</small> 加古川市 (57) | <small>あこうし</small> 赤穂市 (62)   | <small>たかさごし</small> 高砂市 (29)    |
| <small>しろうし</small> 宍粟市 (8)    | <small>かさいし</small> 加西市 (16)   | <small>たつのし</small> たつの市 (21)  | <small>いなみちょう</small> 稲美町 (7)  | <small>はりまちょう</small> 播磨町 (51)   |
| <small>ふくさきちょう</small> 福崎町 (6) | <small>いちかわちょう</small> 市川町 (5) | <small>かみかわちょう</small> 神河町 (7) | <small>たいしちょう</small> 太子町 (18) | <small>かみごおりちょう</small> 上郡町 (12) |
| <small>さようちょう</small> 佐用町 (11) | 未回答 (3)                        |                                |                                |                                  |

**問3** 「姫路・播磨」(8市8町)を訪れたことはありますか。

- 1 ある(49) 2 ない(67) 3 未回答(2)

上記で「ある」と答えた方にお尋ねします。「姫路・播磨」を訪れた目的は何ですか。

- 1 帰省(4) 2 観光(41) 3 グルメ(2) 4 仕事(12) 5 その他(0)

**問4** 今回の試食メニューの中で一番印象に残ったメニューは何ですか。

- 1 姫路グルメポーク・桃色吐息の角煮と播磨の温野菜(45)  
2 播磨灘のたこめし(もち麦入)(24)  
3 山田錦の大吟醸酒粕チャウダー(59)  
4 未回答(10)

**問5** 今回の試食メニューは姫路・播磨の食材を使った料理となっていますが、その印象はいかがでしょう。(複数回答可)

- 1 産地がはっきりしているので安心(83) 2 姫路・播磨の食材を使ってみたい(28)  
3 今回の試食メニューを作ってみたい(53) 4 その他(3) 5 未回答(4)

**問6** 今回の試食会は専門学校、高等学校、生産者、行政が連携した取組となっていますが、その印象はいかがですか。

- 1 非常に良い(105) 2 良い(11) 3 あまり良くない(0) 4 良くない(0)  
5 未回答(2)

**問7** 今回の試食会全般についてご意見等があれば記載してください。

別紙参照



食材を提供する調理専門学校の生徒



食材を提供する調理専門学校の生徒



食材を提供する調理専門学校の生徒



メニューの説明や播磨の食材のPR



圏域内の農業高等学校の活動紹介



圏域内の食材を使ったメニュー



日本調理専門学校の卒業生が作ったメニュー表

## (5) 事業の効果、課題及び解決法

### 【事業の効果】

身近にある圏域内の食材を使ったメニューを、地元の生徒が考案することで、消費者においても親近感が生まれ、また、様々な契機を捉えてPRすることで地元食材に対する認知度が向上し、購買意欲も促進され、消費の拡大に寄与した。

今回実施した首都圏でのイベントがきっかけとなり、東京・浅草「まるごとに

っぼん」内の飲食店で播磨の食材を使ったメニューが実際に提供されるなど、播磨の食材の販路拡大にも繋がった。

さらに、様々な機会に農業高等学校や調理専門学校活動を紹介することで、日々の活動に対する評価を直接的に感じ、本来の授業では得られない貴重な体験をすることで、新たに「食」に関わる人材の教育・育成にも繋がった。

試食会で実施したアンケートにおいても、播磨の食材を知ることができた、播磨の食材に興味を持てた、調理専門学校・農業高校・生産者・行政が連携した良い取組だ、など好評であった。

また、本取組が地元新聞に取り上げられるなど、播磨圏域内だけでなく広域的なPRにも繋がった。

### 【課題及び解決法】

この事業では、「食」に関わる各関係団体・関係者をおある程度絞っていたが、来年度以降は、関係者等の追加も検討し、「食」をテーマとした連携（集積）を強化する必要があると考えている。また、本圏域内には中小規模の生産者・事業者が多くあり、連携（集積）して事業に取り組むには、そういった中小規模の生産者等が事業に取り組やすいように事業の立上げ当初から協力を要請する必要がある。

また、播磨圏域連携中枢都市圏が取組む、「播磨地域ブランド」の確立、播磨地場産品販路拡大事業、農商工等連携の推進など、それぞれの事業との連携についても検討する必要がある。また、食材が持つ機能性の研究についても、圏域内の大学等との連携により、播磨の食材をPRする一つのツールとして検討する必要がある。

来年度以降も引き続き、「食」をテーマにした連携のあり方について、関係者等の追加も検討しながら、協議を行う予定である。

#### (6) 今後の展開・方向性

- ・「食」をテーマとした取組の掘り起し
- ・他都市の先進事例の調査研究等を通じた具体的な施策の検討
- ・広域観光事業との連携による農林水産業の活性化

#### (7) 参考（播磨圏域連携中枢都市圏の取組）

- ・播磨地域ブランドの確立  
→既存の認定（認証）等を活用して選りすぐった多彩な地場産品を播磨の地場

産品（「豊穰の国・はりま）として統一感をもって展開することで地域ブランド力の向上を図る。

→「豊穰の国・はりま」を紹介するPR冊子及び販売促進資材を作成し、様々な広報媒体を通じて圏域内外へ向けて情報発信を行う。

→「豊穰の国・はりま」の充実・拡大を図るため、地場産品の掘り起しや認定（認証）制度の活用を促進する。

・播磨地場産品販路拡大事業

→圏域内外への販路拡大・消費拡大を図るため、圏域内の百貨店等を会場とした物産展を開催するなど、幅広い世代に向けて地元の良さは発信する。また、東京・大阪など大都市圏でのPR活動についても検討する。

・農商工等連携の推進

→農水産物の生産技術等の研究や競争力強化に向け、生産者・商工業者・大学等との農商工等連携を推進する。